

第2回 福岡空港滑走路増設事業環境影響評価技術検討委員会
(議事要旨)

日 時：平成25年3月22日(金) 13:30～14:50

場 所：福岡第二合同庁舎 2階 共用第2～4会議室

出席委員：

たむら	こうさく	
田村	耕作	(日本野鳥の会 福岡 副代表)
のがみ	あつし	
野上	敦嗣	(北九州市立大学 国際環境工学部 教授)
まつふじ	やすし	
松藤	康司	(福岡大学 工学部 教授)
よしひさ	こういち	
吉久	光一	(名城大学 理工学部 教授)

<敬称略：五十音順>

議事要旨：

1. 環境影響評価に係る手続きの経過報告について

・方法書に係る公告、縦覧、説明会等のこれまでの環境影響評価に係る手続きの経過について事務局から報告を行った。

2. 環境影響評価項目・手法の選定について

・一般の方及び県知事より提出された環境の保全の見地からの意見について、事務局より事業者としての対応方針(案)の説明を行った。以下の質疑及び助言がなされ、内容の了解がなされた。

【大気環境について】

委員：委員会資料に記載の各種マニュアルについては、いつ誰が出したものなのかを記載すること。また、「低周波音の測定方法に関するマニュアル」は、航空機を対象としたものではないため、測定方法に係る記載について確認を行うこと。

事務局：マニュアルの出典は記載する。「低周波音の測定方法に関するマニュアル」については、確認の上、ご相談させていただきたい。

【大気質について】

委員：一般の方の意見や県知事意見を踏まえ、飛行ルート下に調査地点を追加したことは好ましいと思うが、測定する際の高さはどのように考えているのか。

事務局：窒素酸化物については地上1.5m、浮遊粒子状物質については地上3mの高さで測定することを考えている。

【騒音(航空機騒音)について】

委員：航空機騒音の評価指標に関し、地上航空機騒音を含めていなかった従前のWECPNL値と来月より導入されるLden値とを比較するためには、Lden値に係る調査・予測を、地上騒音を含める場合と含めない場合の2通りで行う必要があるのではないか。

事務局：県知事意見を踏まえ、双方の指標で予測することとしている。

アセス制度においては、Ldenにより現状と将来を対比し、環境影響を評価すれば

良いこととなっているが、ご指摘のようなLdenのうち飛行音のみのコンターと、Wのみのコンターとの比較を含め、どのように対応するかの詳細について、ご相談させていただきたい。

委員：「航空機騒音測定・評価マニュアル」には予測手法は記載されていないはずなので、対応方針（案）の表現を修正する必要がある。

事務局：ご指摘を踏まえ、対応方針（案）の表現を検討させていただきたい。

委員：「航空機の低騒音化が言われているが、早朝深夜便とも従来の騒音と変わらないことから、その実態と内容を明確にしてほしい。」という一般意見に対する対応方針（案）としては、低騒音化の推移を示しますという形になるのではないかと。また、示す際には、具体的データを用いて示すべきである。

事務局：準備書には、低騒音化の推移について、科学的なデータとともに一般の方々に対しても分かりやすい形で記載する。

【騒音（工事の実施に係るもの）】

委員：追加した調査地点は、最近住宅が増えた場所ということで選定したのか。

事務局：空港に近接して住宅があるのは確かである。一部の工事が行われる空港内エリアの近傍ということで選定を行った。

【その他】

委員：「調査結果を公開（公表）してほしい」という意見に対しての対応方針（案）を資料3にも記載すること。

事務局：ご指摘に対する対応方針（案）を資料3にも記載する。今回実施する現地調査の結果は、資料2にあるとおり準備書に記載し公表する。ただし、水質に関する事後調査については、今回の現地調査や予測の結果等を踏まえ、主務省令に基づき、実施の必要性を検討し、必要な場合にあっては、準備書に当該調査の実施内容を記載する。

委員：盛土による空港用地外への影響は想定されない理由について、根拠を加筆すること。

事務局：資料2に根拠を加筆する。

委員：部品の落下等についての一般意見があるが、例えば安全面については、データの提示等の対応をすべきではないか。

事務局：従前より別途行っている個々の対応の中で、本方法書に対するご意見への対応としてまいりたい。

委員：本日の指摘事項を反映の上、委員会資料の修正を行うこと。修正内容については、委員長の了解を得ること。

事務局：ご指摘を踏まえ、委員会資料の修正を行い、委員長のご了解を得た後に、HPにて公表させていただきたい。

以上